

◎市立学校の給食について

1 横須賀市学校給食運営審議会による審議について

昨今の食材料等の物価高騰の影響により、現状の給食費による学校給食の運営が難しい状況となっていることから、令和6年9月24日に、教育委員会から横須賀市学校給食運営審議会（以下「審議会」という。）に対し、適切な給食費の額について諮問しました。

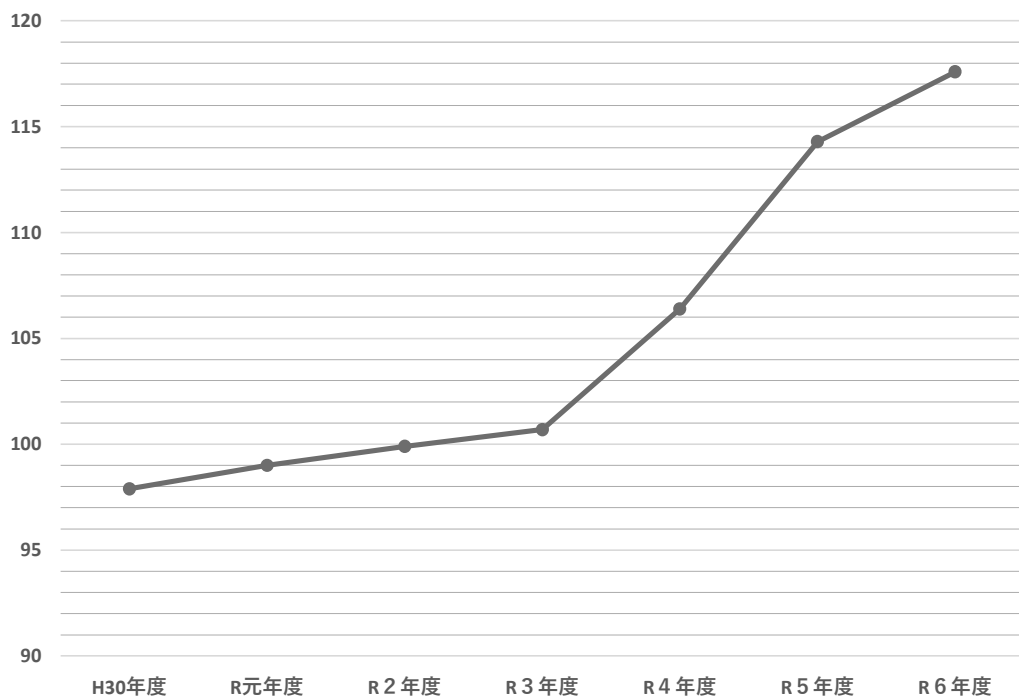
同諮問に対し、審議会において審議が行われ、令和6年12月25日に、審議会から教育委員会に対し、今後の学校給食費の額についての答申が提出されました。

2 審議会における検討内容

（1）物価上昇と1食単価の推移及び今後の物価上昇率の想定について

ア 消費者物価指数（食料）

消費者物価指数（食料）各年度平均値の推移



R6年度は4～10月の平均値

イ 1食単価（令和3～6年度）について

年度	小学校1食単価	中学校1食単価	備考
令和3年度	260 円	330 円	補填なし (現行給食費による運営)
令和4年度	267.24 円	338.94 円	交付金による補填
令和5年度	280.38 円	353.97 円	交付金による補填
令和6年度	281.17 円	355.74 円	12月補正予算による補填(想定値)

ウ 今後の物価上昇率の想定について

消費者物価指数（食料）年度平均と今後の想定

*令和6年度は4～10月分

年度	指数	指数変動幅				令和6年度比 上昇率
平成30年度	97.9					
令和元年度	99.0					
令和2年度	99.9					
令和3年度	100.7					
令和4年度	106.4					
令和5年度	114.3	↑ 11.2	↑ 11.2			
令和6年度*	117.6		↑ 11.2	↑ 11.2		
令和7年度	125.5 想定		想定	↑ 11.2	↑	↑6.7% (7.9P 増)
令和8年度	128.8 想定			想定	11.2	↑9.5% (11.2P 増)
令和9年度	136.7 想定				想定	↑16.2% (19.1P 増)

①令和7～9年度の想定指数の算出について

直近3年間の指数変動幅（11.2ポイント上昇）が今後も継続すると想定
→前々年度の指数に11.2ポイントを加えた数値を想定指数と設定

②今後の物価上昇率（令和6年度比変動率）について

令和6年度指数との指数変動幅により算出

【今後の想定物価上昇率】（令和6年度比）

令和7年度	令和8年度	令和9年度
6.7%	9.5%	16.2%

(2) 給食費シミュレーション

ア 物価高騰に対応するために必要となる額

〔設定方法〕 令和 6 年度想定 1 食単価に物価上昇率を加算しシミュレーション

	上昇率(対 R6)	小学校 1 食単価	中学校 1 食単価
令和 6 年度	—	281.2 円	355.7 円
令和 7 年度	6.7%	300.0 円	379.5 円
令和 8 年度	9.5%	307.9 円	389.5 円
令和 9 年度	16.2%	326.8 円	413.3 円

⇒ 令和 8 年度を目安に設定

【案①】〔小学校〕 310 円 (=307.9 円) 〔中学校〕 390 円 (=389.5 円)

イ 給食内容の改善に必要な額

〔改善内容〕

- ・使用する食材の選択肢を増やし、味付け・彩りにバリエーションを持たせる。
- ・提供するメニューの種類を増やす。
- ・食育の観点から日本の食文化や世界の料理を取り入れた給食の提供回数を増やす。
- ・(価格の面から使用を見送っていた) 献立名からイメージされる食材を使用する。

〔具体例〕

小学校

献立	改善前(現在)	改善後	
いそあえ	冷凍小松菜 20g	生の小松菜 20g	生の小松菜 30g
豚すき丼	しらたき 0g~10g	しらたき 20g	しらたき 30g
とり肉のマヨネーズ焼き	とり肉(角切り)60g	とり肉(切り身)60g	とり肉(切り身)70g
プルーン発酵乳	提供なし	1 回程度/年	2 回程度/年

↓ ↓
 プラス 20 円で可能 プラス 40 円で可能

【案②】 330 円

【案③】 350 円

中学校

献立	改善前（現在）	改善後	
肉と大根のべっこう煮	とり肉(75g)	豚肉(75g)	豚肉(80g)
鮭の切り身	1回	2回/年	3回/年
すきやき丼	提供なし	1回/年	2回/年
のり（手巻き用）	提供なし	1回/年	2回/年




プラス 5 円で可能 プラス 10 円で可能
【案②】 395 円 【案③】 400 円

（３）１食単価（案）

【案①】 物価高騰に対応するために必要となる単価
 [小学校] 310 円 [中学校] 390 円

【案②】 給食内容の改善に必要な単価
 [小学校] 330 円 [中学校] 395 円

【案③】 給食内容の改善に必要な単価
 [小学校] 350 円 [中学校] 400 円

<参考> 現行の給食費
 [小学校] 260 円 [中学校] 330 円

（４）給食費設定額（案①～案③）

区分	基準 回数	1食 単価	月額	年額	値上がり額 月額（年額）
【現行】 小学校児童	190	260	4,500	49,500	—
【案①】 小学校児童	190	310	5,350	58,850	850(9,350)
【案②】 小学校児童	190	330	5,700	62,700	1,200(13,200)
【案③】 小学校児童	190	350	6,050	66,550	1,550(17,050)

区分	基準 回数	1食 単価	月額	年額	値上がり額 月額（年額）
【現行】中学校（１・２年）生徒	180	330	5,400	59,400	—
（３年）生徒	163			54,000	—
【案①】中学校（１・２年）生徒	180	390	6,400	70,400	1,000(11,000)
（３年）生徒	163			64,000	1,000(10,000)
【案②】中学校（１・２年）生徒	180	395	6,500	71,500	1,100(12,100)
（３年）生徒	163			65,000	1,100(11,000)
【案③】中学校（１・２年）生徒	180	400	6,550	72,050	1,150(12,650)
（３年）生徒	163			65,500	1,150(11,500)

３ 審議会での検討結果

今後の給食費について、下記シミュレーション３案について検討を行った結果、案②が妥当となりました。

〔意見概要〕

- ・物価高騰のみ反映させた増額の場合、現状の献立と同様の状況が継続し、給食内容の改善につながらないため、一定程度の増額は必要である。
- ・高い額の方が子どもたちにとってより望ましい献立を提供しやすいが、一方で、大幅な増額は保護者の負担感が大きく、ひいては未納者が増える可能性もある。
- ・物価上昇額の予測は難しい面があるので、今回の給食費の改定後、物価高騰に対応できているか、献立の改善が図られているかなどを、審議会として継続的に注視していく必要がある。
- ・急激な増額は、保護者にとって経済的な負担が大きくなる恐れがあるため、特段の配慮について検討することを市に求めたい。

4 答申の要旨

(1) 学校給食の目標

学校給食の目標は、子どもたちが提供された給食をきちんと食べることで初めて達成されるものであり、適切な栄養摂取とともに、子どもたちに食べてほしい献立を提供できる学校給食を目指していくべきである。

(2) 現状

近年、食材料の物価高騰の中、献立を工夫することで対応してきたが、この対応も限界の状態であり、さらに物価が上昇した際には、現在の学校給食の水準さえ維持できないことが予想される。

(3) 改定の必要性

この状況を重く受け止め、本来あるべき給食の継続的な提供を目指すため審議した結果、改定を行うことはやむを得ないとの結論に至った。

(4) 保護者負担への配慮

給食費を改定する場合、急激な増額は保護者にとって経済的な負担が大きくなる恐れがあるので、特段の配慮を検討願いたい。

5 答申により提示された給食費

物価高騰に対応するとともに、給食内容の改善に必要な給食費として、次の額が妥当とされました。

1 食単価 [小学校] 330 円 [中学校] 395 円

(現行 [小学校] 260 円 [中学校] 330 円)